

平成28年度第5回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：平成28年12月20日（火）18：00～20：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：大原主査、須田委員、高田委員、斎藤トバイ、バンダイナムコスタジオ
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

構想力・実践力を目指した分野横断型 PBL 授業について、情報通信系教育、コンテンツ・サービス系教育、ソフトウェア開発のモデル例について委員から提案があり検討を行った。

（1）情報通信系教育モデル

社会や大学の課題、情報系教育の問題解決に向けた連携、学生は設計・開発だけでなくビジネス全体のマネジメントを考えさせる意識付けも考慮していることが説明され、モデルの提案があり、以下のような意見があった。

- ・ 企業との具体的な連携内容を例示できないか。
- ・ 大学の連携についても、例えばネット上での連携など例示できないか。
- ・ システム・スキル把握明確化の説明部分に分野が関わっているイメージを表現できないか。
- ・ 評価の仕組みを含めて提案できないか。
- ・ 知財の保護についても考える必要がある。

（2）ソフトウェア開発系教育モデル

データの分析方法、機械学習での実現・サービス・ライブラリを整理した上で、情報通信モデルの中でのソフトウェア部分を考えさせる提案があり、以下のような意見があった。

- ・ 情報通信系との関連も考えられるが、ソフトウェア開発系として教育モデルのシナリオを提案できないか。
- ・ UML（モデリング）、シミュレーション、アジャイル（俊敏な）型開発などの一般的な手法・言語を取り入れてはどうか。また、これからはAIも外せないことを明記してはどうか。

（3）コンテンツ・サービス系教育モデル

分野横断・イノベーション志向の人材育成を求めること、コンテンツ制作全体、クロスメディアによる融合を整理し、教育モデルが提案された。

- ・ 連携授業の例を提示しているが、ゼミの内容は含めないことにした。
- ・ 分野横断及びイノベーション志向について、具体的な育成に向けた説明が必要ではないか。
- ・ 映画・放送・出版などのメディアに表現やペルソナ（社会的・表面的な人格）が関連するクロスメディアに対応する人材をどのように育成するのか。外国人や日本人のペルソナを考えてモデルに適応してはどうか。

V. 今後のスケジュール

次回の委員会は2月3日に開催し、3モデルの修正案を持ち寄り発表内容を確認することになっている。